第一次の特定外来生物指定対象の評価一覧（昆虫類等陸生節足動物）

第一次の特定外来生物指定対象	被害の概要	評価の理由
ｵｵｸﾁﾊﾞｽ	捕食、競合駆逐	・北アメリカ原産であるため冬の低水温にも耐えることが可能で、かつ繁殖力が旺盛であり、日本各地に広く侵入・定着している。 ・魚食性が強く、日本各地で本種によるとされる在来種の減少などを含む魚類群集構造の変化が報告されており、在来の生態系に被害を及ぼすおそれがある。 ・希少種を含む魚類や水生昆虫、甲殻類等のさまざまな動物を捕食することから、各地で問題とされ対策がとられている。 ・一方、釣魚として人気魚種であり、4湖沼で漁業権魚種として指定されるなど、盛んに釣りが行われている。 ・これ以上の分布拡大を防ぐことについては社会的合意がなされているが、現在釣りが盛んに行われている一部水域では引き続き釣りを認めるべきであるとの強い主張がある。
ｺｸﾁﾊﾞｽ	捕食、競合駆逐	・海外の湖沼では本種の導入後、在来種の減少などを含む魚類群集構造の変化が報告されている。 ・北アメリカ原産であるため冬の低水温にも耐えることが可能であり、かつ繁殖力が旺盛である。流水域でも生息が可能なため、日本各地の湖沼のみならず河川にも広く侵入・定着しており、在来の生態系に被害を及ぼすおそれがある。 ・上述の定着した湖沼では、釣り魚になっているが、これ以上の分布拡大を防ぐことについては社会的合意がなされており、各地で対策がとられている。
ﾌﾞﾙｰｷﾞﾙ	捕食、競合駆逐	・北アメリカ原産であるため冬の低水温にも耐えることが可能で、かつ繁殖力が旺盛であるため、日本各地の湖沼やため池などに広く侵入・定着し、優占魚種の一つとなっている。 ・ため池でブルーギルが急増した時期に在来魚が激減した報告があるなど、捕食や餌をめぐる競争によって在来魚を駆逐する可能性が指摘されており、在来の生態系に被害を及ぼすおそれがある。 ・多様な水域環境で生息でき、かつ水生植物から昆虫、甲殻類、魚類まで幅広い食性を持つ雑食性魚類であり、水生生物全般にとって脅威となりうることから、各地で問題とされ対策がとられている。
ﾁｬﾈﾙｷｬｯﾄﾌｨｯｼｭ	捕食、競合駆逐	・大型になる上位捕食者であり、メキシコでは本種の導入・定着後に在来魚類の減少を含む在来生物相の変化が報告されている。 ・北アメリカ原産であるため冬の低水温にも耐えることが可能で、近年、霞ヶ浦では急速に生息数が増加しており、在来の生態系に被害を及ぼすおそれがある。

参考資料3